北海道美瑛町の公立学校の児童･生徒への教育支援と町のイベント支援

石井　雅幸　教授
(家政学部　児童学科)

概要 : 2022年度包括連携協定を結んだ北海道美瑛町の公立学校の児童・生徒に対して、本学学生と教員による学校支援の取り組みを一昨年度から継続的に行っています。具体的には9月と2月にそれぞれ6名の学生を8日間美瑛町に派遣し、美瑛町内の公立小中学校への教育的支援や美瑛町全体で取り組んでいるイベントへの協力参加を行ってきています。



図 1　農福連携事業の活動の様子　カボチャの収穫

本学の長期休業期間中に、本学の児童教育専攻の学生が美瑛町内の公立学校の学校教育活動に入り、学習支援や学校生活指導上の支援を要する児童･生徒への多様なかかわりを美瑛町教育委員会並びに本学の児童学科の教員の指導のもとで行っていくものです。9月、2月ともに最終日に行う美瑛町教育委員会内での学生による成果発表を行いました。

この取り組みに参加した学生は、美瑛町の規模が町内の子どもの実態を把握した上で個に応じた教育支援を行える可能性があることを知ることができました。また、町全体が町を活性化させるための取り組みに前向きに取り組んでいることを実際に手伝うという体験から知ることができました。学生が、地方の小さな町が存在している意味を知るとともに、地方創生の必要性を強く感じています。以上の取り組みが、本学の知名度を美瑛町にも高め、将来的には美瑛･富良野･旭川周辺の若者の本学への進学を促すきっかけになったり、都市に住む学生が地方創生の必要性を学んだりするきっかけができることをねらっています。

1　取り組み内容

児童教育専攻の学生6名ずつのべ合計12名が、美瑛町に出かけ、表1や表2のような取り組みを行ってきています。9月と2月の2回の取り組みは、季節の違いだけでなく、訪問した学校の形態が異なり

表 1　9 月の取り組みの活動概要

9 月 3 日（火）: 美瑛町教育委員会でのオリエンテーション、その後学校への挨拶、美瑛の教育
9 月 4 日（水）～9 月 6 日（金）: 8 時から 15 時は美瑛小学校・美瑛東小学校にて各学校で必要としていることのボランティア活動実施。15 時以降は美瑛中学校に行き、文化祭の準備の手伝い。
9 月 7 日（土）: 美瑛中学校での文化祭の支援
9 月 8 日（日）: 美瑛町主催のセンチュリーライドのゴール付近での手伝いの実施。
9 月 9 日（月）: 午前は農福連携事業に参加する（図 1）。午後は、美瑛高等学校に行き、理科授業の参観と高校生との懇談を行い、高校生の大学進学の参考の話を行う。夜は美瑛の星空観察
9 月 10 日（火）: 美瑛町教育委員会での成果発表会。

ます。9月は、町内でも比較的規模が大きい学校に入りました（表1）。

2月は、9月とは異なる小規模校での活動でした。大学近郊の都市部の学校では見られない複式学級の授業に入り支援を行いました（表2）。

表 2　2月の取り組みの活動概要

2月12日（水）：美瑛町教育委員会でのオリエンテーション、その後学校へのご挨拶、美瑛の教育
2月13日（木）：美馬牛中学校での学校支援活動。　　現地での移動手段はスクールバス利用
2月14日（金）：三沢小学校での学校支援活動。
2月15日（土）：美瑛の冬の景観を知る活動を行う。
2月16日（日）：宮様国際スキーマラソンのゴール付近での手伝いの実施。
2月17日（月）：美馬牛小学校での学校支援活動。
2月18日（火）：明徳小学校での学校支援活動。
2月19日（水）：美瑛町教育委員会での成果発表会。

本取り組みにおいては、2から3名のこれまでに参加した学生の重複参加の形態をとっています。そのことにより、新規参加の学生は、様々な情報を得ることができるとともに、重複参加の学生は、前回と比較して深い考察ができるからです。その結果として、これまで以上の目的達成ができたと言えます。その結果が、本事業の継続的・発展的な取り組みに繋がっています。また、今年度の9月の取り組みでは、本学科の指定校となった美瑛高等学校に学生が入り、理科の授業参観並びに生徒へのキャリア教育の一貫の取り組みに参加しました。

2　本事業の発展として

今回の取り組みが、基になって以下の取り組みに発展しています。その一つが、一昨年度から継続している本学学園祭での美瑛町出展と、その中での本学と美瑛町とのつながりを説明したコーナーを設けたことです。その中で、本事業の美瑛町での取り組みに参加した学生が、学びで得たことを、来場者に説明しました（図2）。また、参加学生が、春のさくらまつりの美瑛町出店の手伝いも行いました。



図 2　学園祭にて美瑛の教育を語る学生
（令和6年度の学園祭の様子写真）

二つ目が、指定校となった美瑛高等学校から本学科に1名の新一年生が入学したことです。

これらの取り組みの中で、美瑛町との関係が深まるだけでなく、学生の地方創生の意識や少人数体制の中での徹底した個別支援の教育の在り方への意識が高まってきています。こうした中で、美瑛町の取り組みにかかわった令和4年度の卒業生が美瑛町内の公立小学校教員として働いています。また、北海道や地方の教員採用試験を受験した学生が出てきています。少しずつ都市部にある女子大生が地方創生の必要性を感じて自らのキャリアにそのことを反映するような考えができてきています。新しい都市部の女子大学の役割になる可能性を感じています。

構成員：児童学科教員：石井　雅幸、樺山　敏郎、厚東　芳樹、大谷　洋貴、澤井　陽介
　　美瑛町：美瑛町教育委員会；鈴木　誠、目良　久美、髙島　真由美
　　美瑛町まちづくり推進課；観音　太郎、総務課；　新村　　猛
本事業に参加した家政学部児童学科児童教育専攻の学生：1年（5名），2年（5名），3年（1名）、
　　4年（1名）